

決算説明

2019年3月期

2019年5月13日

 株式会社田中化学研究所

目次

1. 2019年3月期 決算ハイライト
2. 2019年3月期 決算トピックス
3. 製品別販売数量 前期との差異要因
4. 製品別販売Q毎推移
5. 主原料国際価格推移（\$/LBベース）
6. 主原料国際価格推移（円/kgベース）
7. 資金調達
8. 営業利益 前期との差異要因
9. 営業外収支および特別損益
10. 比較貸借対照表
11. キャッシュ・フロー計算書
12. 今後のリチウムイオン二次電池市場
13. 技術開発の方向性
14. 2020年3月期 業績予想
15. 製品別販売数量推移予想

付属資料

16. 業績を見る注意点
- ## 注意事項

1. 2019年3月期 決算ハイライト

(単位:百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減	増減率
売上高	21,413	32,632	+11,219	+52.4%
営業利益	730	△ 494	△ 1,224	△ 167.6%
経常利益	633	△ 521	△ 1,154	△ 182.3%
当期純利益	681	△ 524	△ 1,206	△ 177.0%
EPS (円)	26.90	△ 19.17	△ 46.07	△ 171.3%
設備投資額	1,459	5,248	+3,788	+259.7%
減価償却費	493	624	+130	+26.4%
期末従業員数(人)	201	231	+30	+14.9%

2. 2019年3月期 決算トピックス

●販売数量は前年同期比 +31.0% 受注は伸長

- ・リチウムイオン電池向け+38.5%(民生用途△ 6.1%、車載用途+149.2%)
- ・ニッケル水素電池向け +10.5%(民生用途△19.4%、車載用途 +15.8%)

●主原料相場

- ・ニッケル / コバルト相場の下落による差損増大(1Q最高値 vs 3-4Q最低値比較 ニッケル約30% コバルト約70%)

●コスト上昇

- ・主要ケミカル材料や電力料金の値上げによるコスト増は客先への転嫁に時間を要した
- ・中期的な増産に向けた組織人員体制強化による労務費の増加

●設備投資

- ・設備投資金額計 5,248百万円
 - 第二期投資分 5,000百万円 予定(2018年 8月~着工 ⇒ 2019年7月完成予定)
 - 第三期投資分 8,000百万円 予定(2018年11月~着工 ⇒ 2020年6月完成予定)

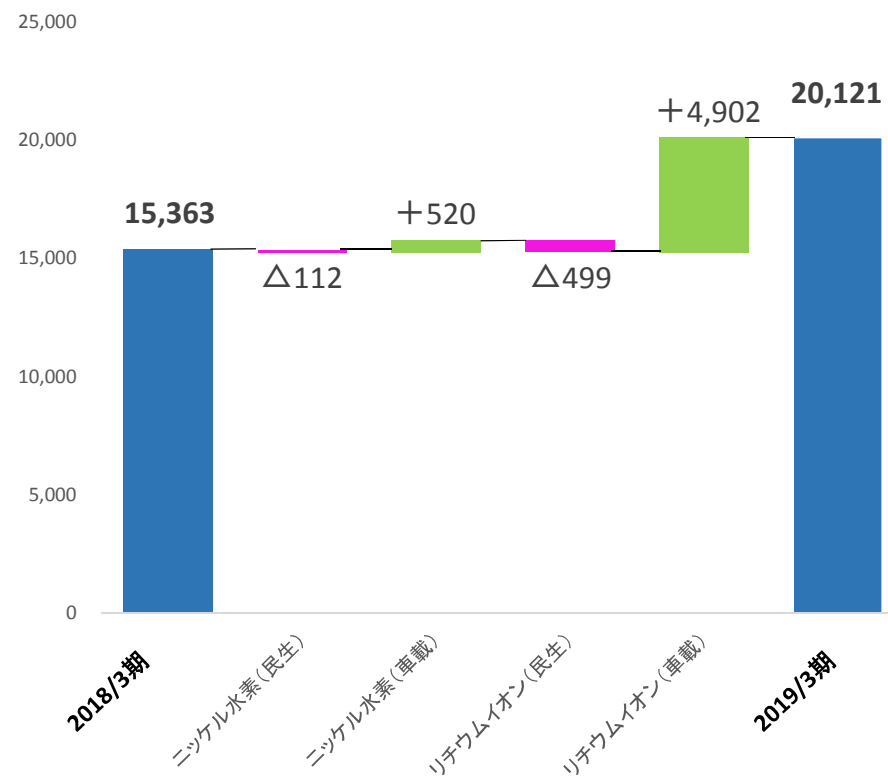
●資金調達

- ・公募及び第三者割当による新株式発行並びに当社株式の売出しによる資金調達を実施

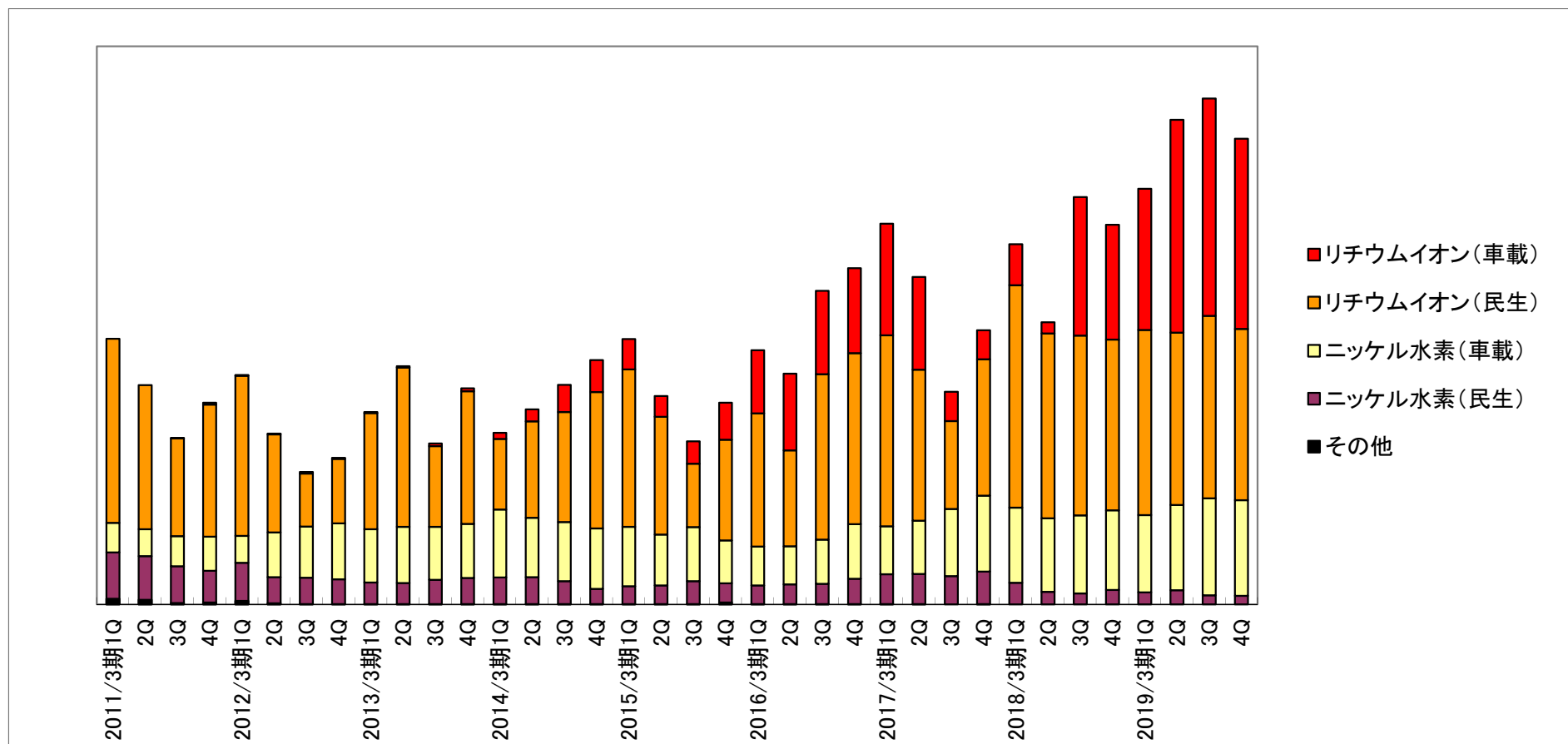
3. 製品別販売数量 前期との差異要因

(単位:t)

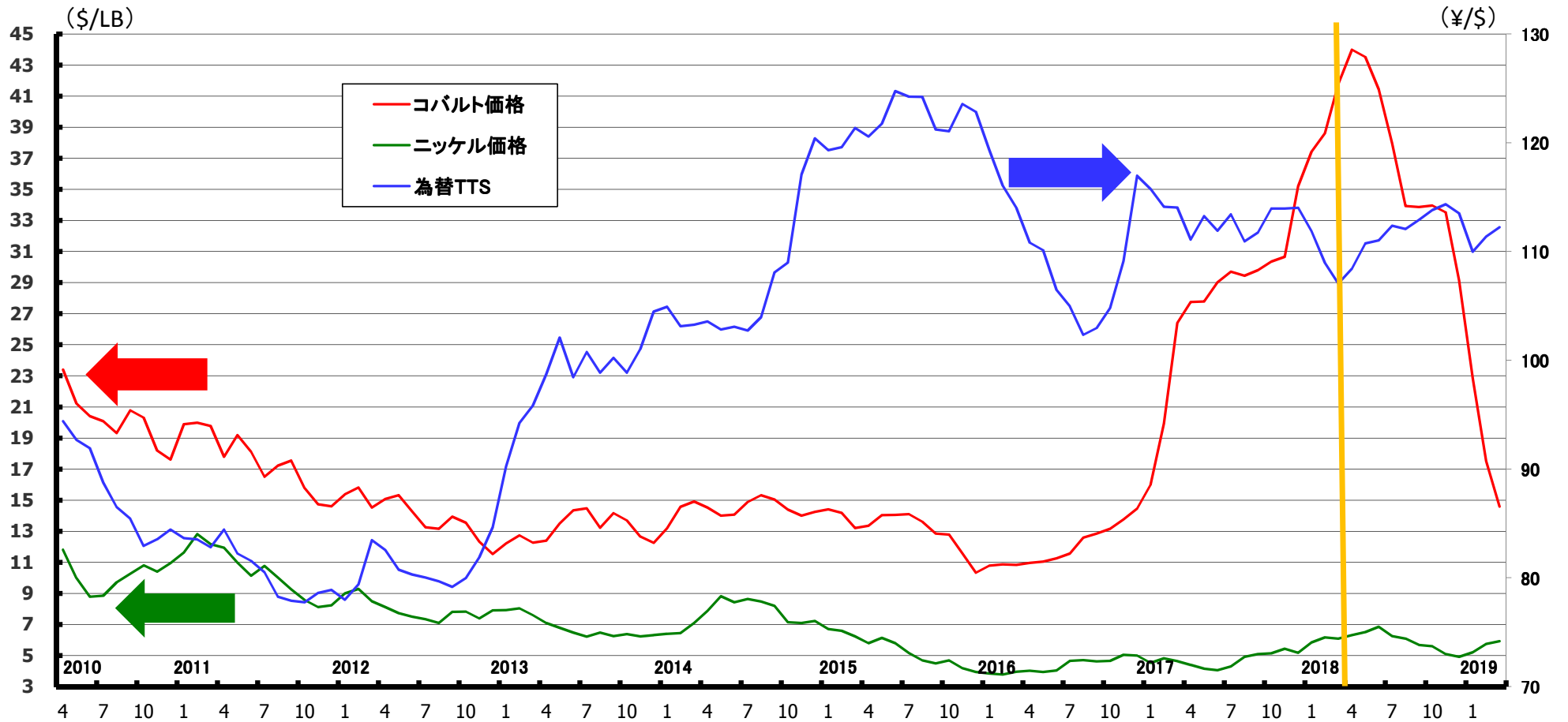
		2018/3期	2019/3期	増減	増減率
リチウムイオン	民生	8,145	7,645	△499	△6.1%
	車載	3,285	8,188	+4,902	+149.2%
	計	11,430	15,833	+4,402	+38.5%
ニッケル水素	民生	580	467	△112	△19.4%
	車載	3,294	3,815	+520	+15.8%
	計	3,875	4,283	+408	+10.5%
その他		57	4	△52	△91.7%
合計		15,363	20,121	+4,757	+31.0%



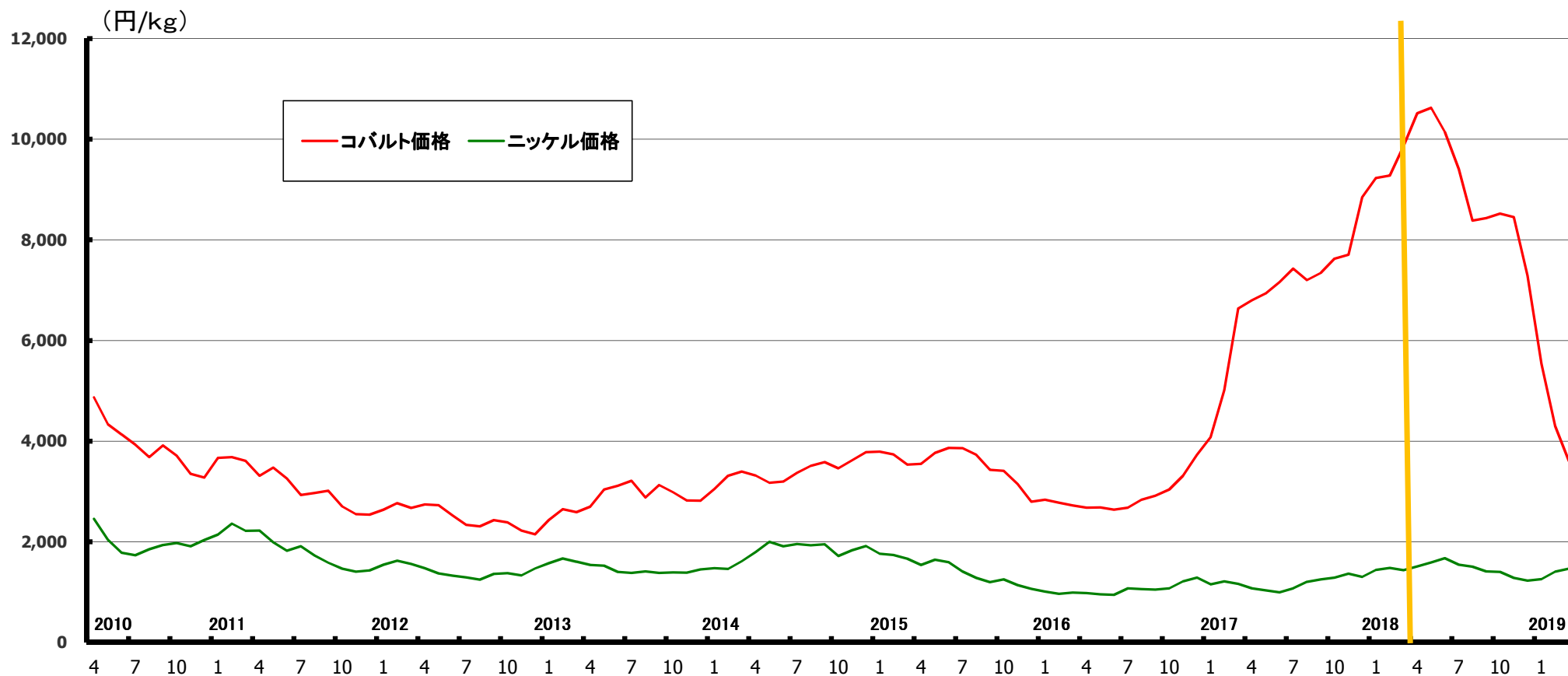
4. 製品別販売Q毎推移



5. 主原料国際価格推移 (\$/LBベース)



6. 主原料国際価格推移 (円/kgベース)



7. 資金調達（公募及び第三者割当による新株式発行並びに当社株式の売出し）

●資金調達の目的

今後、車載用途の更なる需要増に対応するべく、第三期投資(2020年6月完成予定)として工場建屋及びリチウムイオン電池向け製品生産設備の増強に充当。

●資金調達の方法(公募及び第三者割当による新株式発行並びに当社株式の売出し)

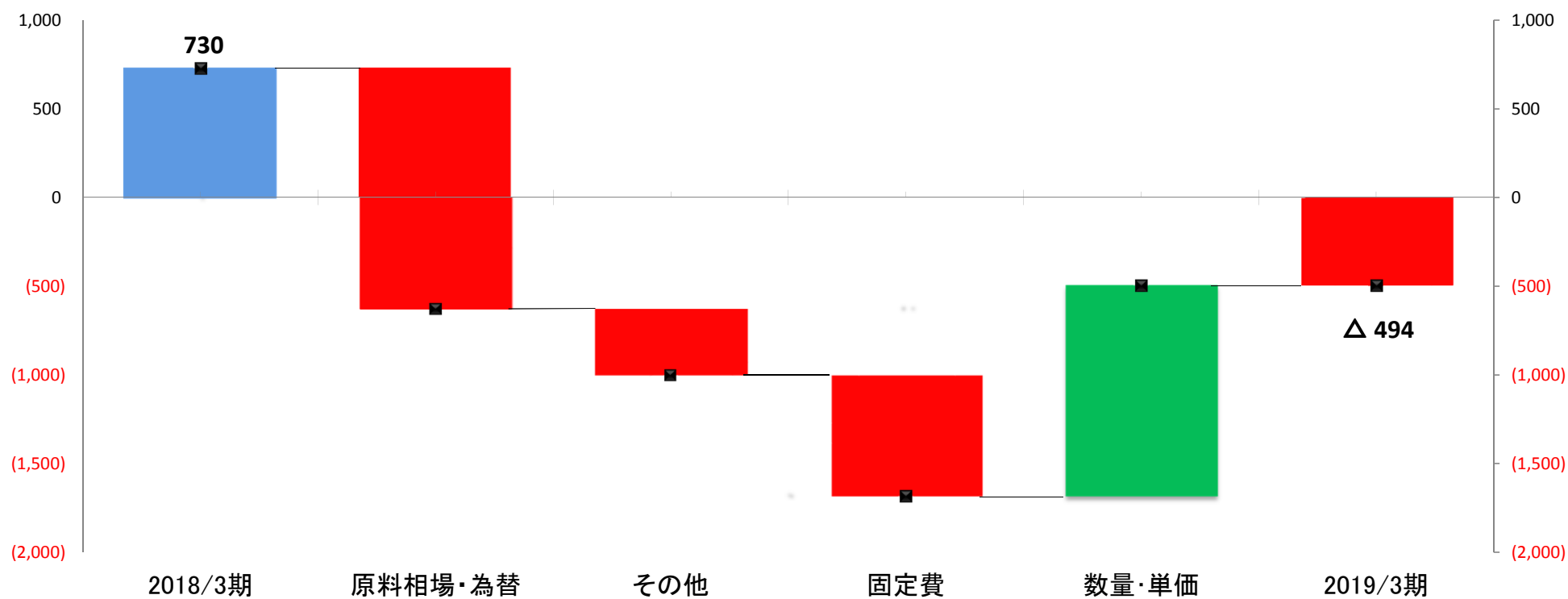
・公募	3,211,200株	2,944百万円(2018年12月18日払込期日)
・第三者割当(住友化学)	3,707,200株	3,566百万円(2018年12月18日払込期日)
・オーバーアロットメント	263,800株	241百万円(2019年1月17日払込期日)
計	7,182,200株	6,752百万円
		(内 増加する資本金 3,376百万円)
		(内 増加する資本準備金3,376百万円)

●資本金の増加

・発行済株式	25,350,800株	資本金	5,779百万円(2018年9月末)
・増加する資本	7,182,200株		3,376百万円
計	32,533,000株	資本金	9,155百万円(2019年3月末時点)
	(内 住友化学 16,407,200株)		
	(内 住友化学持株比率 50.43%)		

8. 営業利益 前期との差異要因

(百万円)



9. 営業外収支および特別損益

(単位:百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減
営業外収支	△ 97	△ 27	+70
金融収支	△ 20	△ 16	+4
為替差損益	△ 71	24	+95
その他	△ 5	△ 34	△29
経常利益	633	△ 521	△1,154
特別損益	△ 1	△ 10	△9
税引前当期純利益	632	△ 531	△1,164
法人税等	△ 49	△ 6	+42
当期純利益	681	△ 524	△1,206

10. 比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減
流動資産	11,364	16,065	+4,700
現預金	945	2,035	+1,090
売上債権	3,230	2,878	△352
棚卸資産	4,578	3,976	△602
グループ預け金	2,000	6,500	+4,500
その他	609	674	+64
固定資産	5,113	9,956	+4,843
有形固定資産	4,873	9,717	+4,844
機械装置他	2,471	5,160	+2,689
土地	1,125	1,263	+138
建設仮勘定	1,276	3,293	+2,016
無形固定資産	10	6	△3
投資等	229	232	+2
資産合計	16,477	26,021	+9,544

	2018/3期	2019/3期	増減
流動負債	5,464	9,225	+3,760
仕入債務	3,184	4,564	+1,380
借入金	300	300	—
その他	1,980	4,361	+2,380
固定負債	2,573	2,133	△440
借入金	2,400	2,100	△300
その他	173	33	△140
負債合計	8,038	11,359	+3,320
資本金	5,779	9,155	+3,376
資本剰余金	3,286	6,662	+3,376
利益剰余金	△ 644	△ 1,169	△524
自己株式	△ 2	△ 2	△0
その他	19	15	△3
純資産計	8,438	14,662	+6,223
負債純資産合計	16,477	26,021	+9,544

自己資本比率	51.2%	56.3%	+5.1%
--------	-------	-------	-------

1.1. キャッシュ・フロー計算書

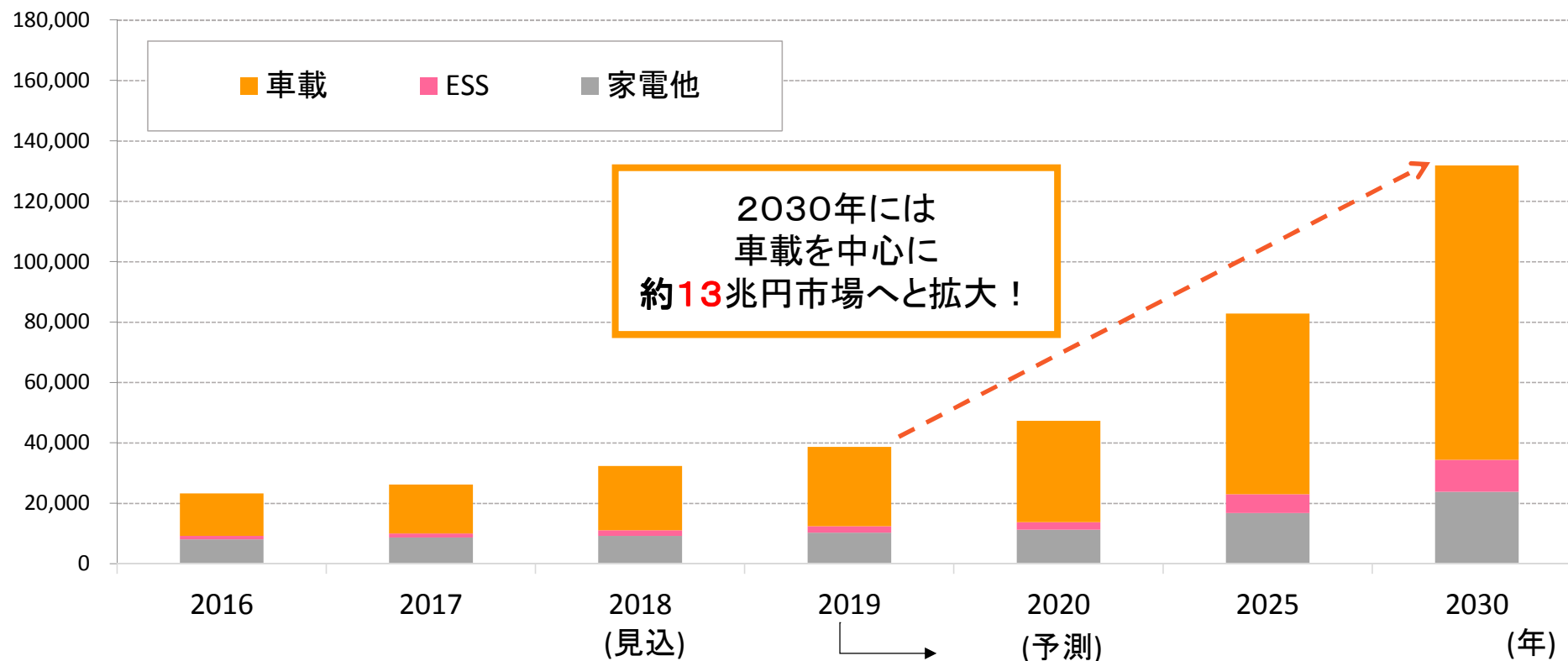
(単位:百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益	632	△ 531	△1,164
減価償却費	493	624	+130
運転資本による資金の増減	△ 1,818	2,334	+4,153
その他	△ 128	98	+227
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 797	2,524	+3,322
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得	△ 333	△ 3,210	△2,877
その他	1	0	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 331	△ 3,212	△2,880
フリー・キャッシュ・フロー	△ 1,129	△ 687	+441
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入金の返済による支出	△ 300	△ 300	—
株式の発行による収入	—	6,715	+6,715
その他	△ 123	△ 138	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 423	6,276	+6,700
現預金等換算差額	△ 24	1	+25
現預金等増減額	△ 1,576	5,590	+7,167
期末現預金残高	2,945	8,535	+5,590

12. 今後のリチウムイオン二次電池市場

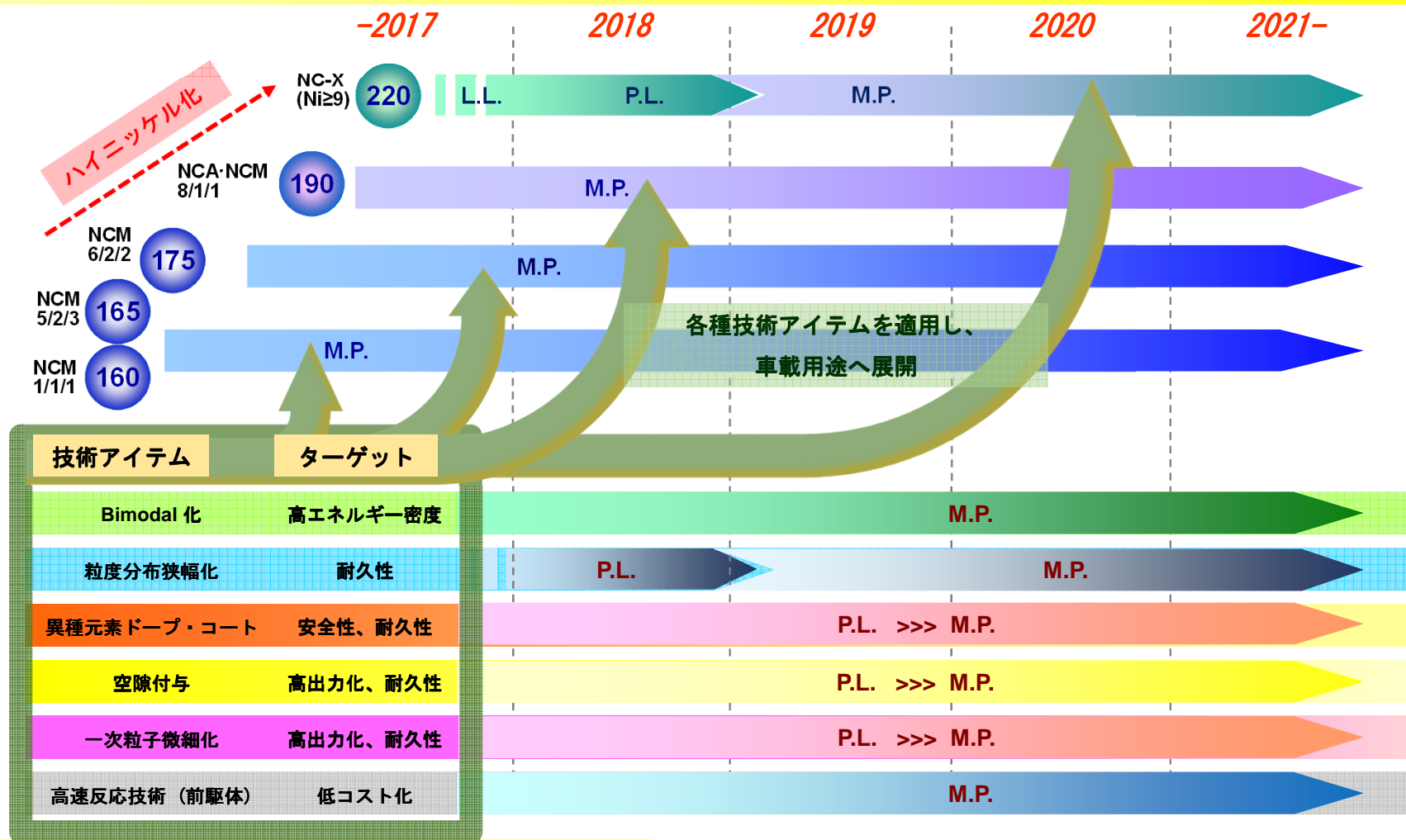
リチウムイオン二次電池市場予測

(単位: 億円)



出所: 富士経済「エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望 2018—エネルギーデバイス編—」

13. 技術開発の方向性



L.L.: Lab Level, P.L.: Pilot Level, M.P.: Mass Production

14. 2020年3月期 業績予想

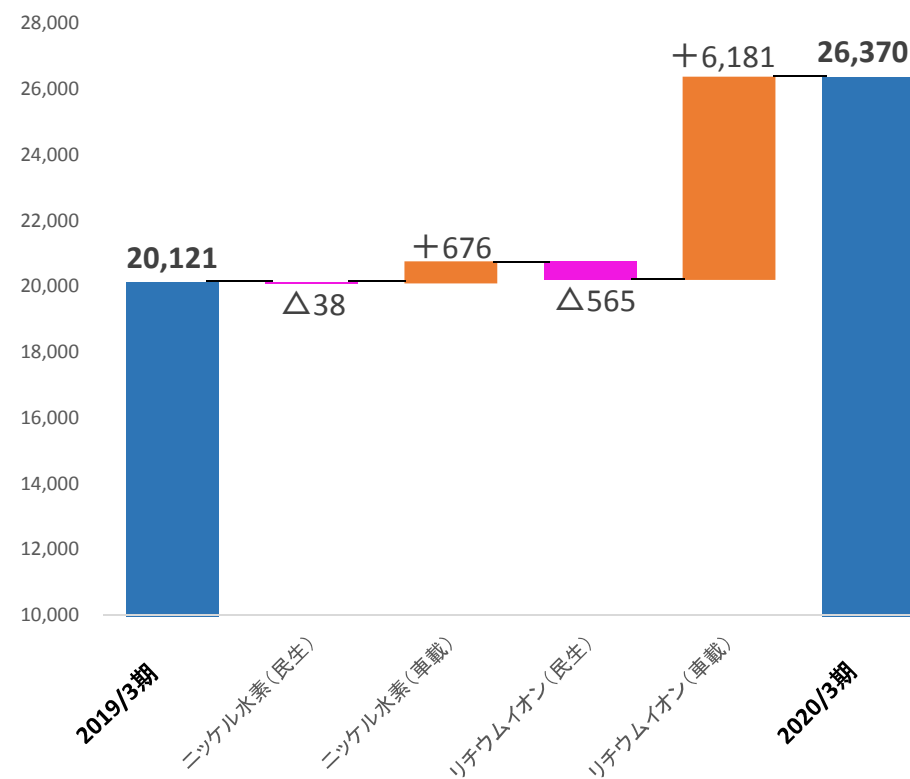
(単位:百万円)

	2019/3期 実績	2020/3期 予想	増減	増減率
売上高	32,632	32,000	△632	△1.9%
営業利益	△494	220	+714	+144.5%
経常利益	△521	190	+711	+136.5%
当期純利益	△524	170	+694	+132.4%
設備投資	5,248	9,140	+3,891	+74.2%
減価償却費	624	1,200	+575	+92.3%

15. 製品別販売数量推移予想

(単位:t)

		2019/3期	2020/3期	増減	増減率
リチウムイオン	民生	7,645	7,080	△565	△7.4%
	車載	8,188	14,370	+6,181	+75.5%
	計	15,833	21,450	+5,616	+35.5%
ニッケル水素	民生	467	428	△38	△8.3%
	車載	3,815	4,492	+676	+17.7%
	計	4,283	4,920	+637	+14.9%
その他		4	0	△4	—
合計		20,121	26,370	+6,249	+31.1%



付属資料

16. 業績を見る注意点

販売単価

$$\begin{aligned} \text{売上高} &= (\text{主原料国際価格} + \text{加工単価}) \times \text{販売数量} \\ &= (\text{主原料国際価格} \times \text{販売数量}) + (\text{加工単価} \times \text{販売数量}) \end{aligned}$$

//
利益に関係なく増減

//
利益の源泉
(加工収入)

1. 販売単価は、原則として主原料国際価格にスライドする。
従って、売上高は主原料国際価格の変動により利益に関係なく上下する。
2. 利益は「加工単価」と「販売数量」の積である加工収入にリンクしている。
3. 「加工単価」は製品の鮮度、技術的な革新性、工程の複雑さなどによる。

(注意事項)

本資料に掲載されている田中化学研究所の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、田中化学研究所の事業領域をとりまく経済情勢、市場における田中化学研究所の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において田中化学研究所が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。